

小玉 真澄(愛知)

株式会社オカムラ中部支社

〒450-6414 名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビルヂング14階



プライベートな集中環境

いつでもどこでも働けるレンタル個室ブース「テレキューブ by オカムラ」。皆さんは見たことがありますか？

名鉄バスターミナル、名鉄金山駅、大曽根駅、大名古屋ビルヂングなど、最近街中でよく見るようになりました。同じように「EXPRESS WORK Booth」(オカムラ製)がJR名古屋駅に新しく設置されました。

最近のオフィスではWeb会議が増えたことにより、声が気にならない空間や集中できる環境の需要が高まり、テレキューブを設置する企業が増えました。

大学では就職活動のWeb面談が増えたことにより、WebカメラとLEDスタンド付きテレキューブが、キャリアセンターに設置することが多くなってきました。ま



テレキューブ by オカムラ

た、自治体では自宅にテレワーク環境のない住民のために、様々な施設の中にテレキューブを設置して働く場所を提供しています。

昨今、働き方改革によりオフィス以外で働くことが注目され、コロナ禍でテレワークをすることに一層拍車がかかりました。時代が大きく変わっていく中、私たちの働き方も変化をしています。オカムラはより良い働き方を提案していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



EXPRESS WORK Booth

建築確認検査、住宅性能評価、住宅瑕疵保険、
構造計算適合性判定、省エネ適合性判定のほか
インスペクション業務なども行っています。



一般財団法人 愛知県建築住宅センター



CONTENTS

法人協力会通信 54

株式会社オカムラ中部支社 表紙裏

小玉 真澄

地域会だより 1

新年あいさつ 2022 2

水野 豊秋・浅井 裕雄

八木 紀彰・澤村 喜久夫・長尾 英樹・出口 基樹

連載：マクロとミクロの視点から組み立てた
景観計画群のマネージメントの実践
—日本建築学会賞受賞業績記 第5回— 6

浅野 聡

2021東海住宅建築賞 2次審査 8

伊藤 恭行

『ARCHITECT』400号記念
300号から400号までの主な変遷
頁数の推移とともに振り返る 10

中澤 賢一・川本 直義

三重発
森羅万象匠塾開催 13

池澤 邦仁

新年広告 14

自作自演 私の仕事05

万年筆と神守の一里塚 15

外山 重利

私のとっておき18 15

六道の辻

川本 直義

保存情報 第241回

データ発掘：猿投神社東の宮と猿投山 16

中澤 賢一

編集後記 16

冨田 彰次・矢田 義典

TOPIC

「羽島の宝物-旧羽島市庁舎」勉強会 17

服部昌也

地域会だより 今後の予定

■JIA静岡地域会

- ・1/13 静岡地域会役員会の開催(WEB同時開催)

■JIA愛知地域会

- ・1/12 名古屋市立猪高小学校建築教室
・ひなん時の「くつろぎハウス」をつくろう!(事前授業)
- ・1/21 第8回役員会(WEB併用)
- ・1/31 名古屋市立猪高小学校建築教室
・ひなん時の「くつろぎハウス」をつくろう!(ワークショップ)

■JIA岐阜地域会

- ・1/20 第9回役員会(仮)
・ハートフルスクエアG2F 研修室にて

■JIA三重地域会

- ・1/22 建築文化講演会「マウントフジの仕事」原田真宏+原田麻魚氏
アストホール(津駅前 アスト津4F)

Bulletin Board

講座案内

名古屋市立大学授業「建築家の仕事」
JIA 愛知・大学特別委員会主催の
名古屋市立大学 芸術工学部 2021 年度後期授業

「建築家の仕事」が毎週金曜日開催します。JIA会員も聴講出来るようご配慮頂きました。それぞれの会員が日々取り組んでいる仕事や、学生への未来に向けてのエールなど、普段、会の活動だけでは見えない会員の仕事や取組みを紹介しています。

- 1月 14日 ハウスメーカーや設計事務所を通じて感じたこと
宇佐美 寛
- 1月 21日 全体講義を通して学生からのレポートを基にディスカッション
講師 全員
- 各回金曜日 10:40から12:10
- 聴講方法 聴講希望者は、各回ごとに鈴木賢一先生へご一報願います。
ken@sda.nagoya-cu.ac.jp まで

講演会

建築文化講演会2022
マウントフジの仕事 原田 真宏 + 原田 麻魚

- 主催 JIA東海支部三重地域会
- 共催 (一社)三重県建築士会
- 後援 津市
- 日時 2022年1月22日(土)13:30~15:30(受付13:00)
- 会場 アストホール(アスト津 アストプラザ4F)
三重県津市羽所町700(近鉄名古屋線JR紀勢本線津駅隣接)
- 定員 270名(当日先着順・聴講無料)

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により入場者数を制限させていただく可能性がありますので、ご承知おきください。
※講演開催の有無等について変更がある場合は、主催者のホームページ等に内容の掲載をさせていただきます。

- お問い合わせ/JIA三重連絡事務局(日新設計株式会社 内)
TEL:059-227-7421 FAX:059-225-7854
E-mail:jia-mie@nisshin-sekkei.com

「JIAに入会して」

JIAという風格のある建築家の集いへ加入するという素晴らしいご縁を頂きましたので、諸先輩方の皆さんと交流させて頂いたり、大いに学ばさせて頂いたり、自己研鑽に励みたいと思います。それと共に、一介の建築家として末端の地方から、建築とそれを取り巻く産業連関を活気付けていきたいと思っています。

表紙 多雪地域での形式を模索する

設計する上で背景にある気候風土を読み解くと共に、個別解として生まれる形式が、その環境で何らかの汎用性を持って展開し得るかをよく考える。「飛騨古川 雪またじの屋根」では、寒冷地である飛騨地方における屋根の凍害防止策として、東南アジアなどの蒸暑地域で散見される二重屋根構造を参照した。激しい寒暖差に直面するこの地域の屋根は、常に凍害や劣化リスクに晒され維持管理負荷が大きい傾向にあるが、この形式がこの地における新たな屋根の可能性を切り拓くことを模索した。



澤 秀俊 (JIA岐阜)
澤秀俊設計環境/SAWADEE

JIAはコロナ禍でどう変わったか

東海支部会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

支部長就任からもう1年半が経ち、任期も余すところ半年余りとなりました、この間新型コロナウイルス感染症に世界中が翻弄され、東京オリンピックも1昨年からの延期、そして結果的に無観客での開催となり、盛り上がり欠ける大会となってしまいました。JIAも沖縄での全国大会が、本年への順延となり、東海での開催予定は2023年となりました。準備をスタートさせていましたが、1年延期となり仕切り直しを余儀なくされました。

そんな中、東海支部の事業は、ARCHITECTの毎月発行他、前年度中止となった3事業がすべて開催されました。

●第26回東海卒業設計コンクールは、5月6日の一次審査、5月29日には入賞者のwebでのプレゼンによる2次審査が実施され、その後本部卒業設計コンクールに送られました。

●第8回東海住宅建築賞は、8月28日のweb・リアル併用でのプレゼンによる1次審査を経て、10月23・24日には現地審査及びweb配信による、最終選考会が実施されました。

●第37回東海支部設計競技は、10月30日の1次審査、11月20日には入賞者のwebでのプレゼンによる2次審査の実施と、中川エリカさんの講演会が行われました。

これらの事業は各委員会の委員の皆様をはじめ、協力者の皆様の創意工夫により、開催することができたものと感謝申し上げます。そして今後の開催に当たっても、ライブ配信により幅広く発信できる、ツールを手に入れるというメリットあり、これを生かしていかなければと思います。

この原稿を書いている11月末では、コロナの流行もワクチン接種の普及によるものか?取まっていますが、何時第6波の流行がはじまるのか、年末年始の行動制限がどうなるのか、明確な方向性は見えてきません。ただ12月の本部理事会は、支部長就任以来、初めての集合形式での開催予定です、リアルでの顔合わせが楽しみです。また当初に掲げた「会員の自主性を尊重し、やりたいことができる会に」そのための中長期的な改革に着手、という目標は、私の力不足で少しも達成できていませんが、JIA東海支部にとって新しい動き、地方自治体からの設計者選定支援の話があります、ここには具体的なことは記載できませんが、春ごろまでには動き出せることと期待し、是非実現出来る様進めたいと思います。

■本部での新しい動きを少し触れます。

●「住宅等連携会議」(委員・愛知地域会西村会員)。

地域情報の共有と社会に向けての発信、地域建築設計事務所の業務改善、法規制の改善、を目的とした全国連携会議。

●「オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会」(委員・三重地域会奥野会員)。

オンライン/リモートの急速な普及が及ぼす影響への提言をする。業務委員会パンデミック対応WGからの移行。

●「(仮称)カーボンニュートラル対応特別委員会」

(委員・愛知地域会柳沢会員予定)。

『2050カーボンニュートラルの実現』に向けて、JIA会員及び一般社会を対象としたセミナーの実施やJIAとしての対応方針等を検討、情報発信していくことを目的とした特別委員会。

●「(仮称)知財WG」(委員・愛知地域会澤村会員)。

『知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会』との足並みをそろえる体制を整え、連携を図るための総務委員会内WG。設計者選定支援業務に関連すると思われます。

●「資格制度準備WG」(委員・愛知地域会水野会員)。

建築家資格制度再起動への建築家資格制度及び同認定機関のありかたに関する検討特別委員会設置に向けた準備チームで、今までの建築家資格制度の経緯評価・統括、将来に向けて建築家職能の対社会の可視化・強化・継承、これらの具体策の策定等を進める。

等々の新しい委員会・WG等が設置され、それぞれの検討課題について活発な議論がなされています、立ち止まることなく、当面の課題の克服や将来に向けての提言を実践しています。

これらの情報は支部役員会等で伝えていますが、各地域会でも直接関連することがあると思いますので、ご意見等を発信してください。

最後に各地域会との連携を図り、絆を深めるよう運営させて頂く所存ですので、会員の皆様には、益々のご指導をいただけます様、本年もどうぞよろしくお願い致します。



JIA東海支部支部長
水野 豊秋

新年あいさつ

アップグレードの年

あけましておめでとうございます。

パンデミックはまだ終わらない

日本での感染拡大から2年が経とうとしている。この原稿を書いているさなか、南アフリカでの変異型が世界に広がっている。これを読んでいる今は、すでにオミクロン株に置き換わっているかもしれない。新型コロナの変異はこれからも続くだろう。

働き方改革

パンデミックは、働き方を考える機会を与えてくれた。名市大でのJIA大学の授業でも、この変化を伝えている。私達の事務所の変化とは、リモートの導入とBIM化への一歩。幸いコロナの感染拡大前から、クラウドによる情報共有は進めており、どこでも、誰もがプロジェクトファイルやタスク管理へのアクセスが容易で共同して仕事ができるようになってきた。そのこともあり、子育てをしてくれるスタッフが3名、web空間を通してコミュニケーションをしている。しかし、学生は設計事務所の働き方はいわゆるブラック、と思っている。それでも、アトリエ事務所に興味を抱く人は、建築の面白さを胸にそのブラックに飛び込もうとしている。

少エネと二極化は進んでいる

車に興味のない若い人の話はよく聞く。僕は真逆で、若い頃からカーグラ(※1)を読み、中古車を購入するときは、赤池にある高原書店にいて、カーグラのバックナンバーを探し、お目当ての車種の記事を読んで、車を購入。時には、車を走らせるために鈴鹿サーキットへ走りにもいった。そんなやり方で、いくつか乗り継いできた。

電気自動車に乗り換えた、あたりから愛着というより、道具としての位置づけのほうが強く、カーグラを読むこともやめてしまった。7年の電気自動車生活はエネルギーの転換点を意識させ、電気の汎用性の高さを気づかせてくれ、何より移動に工夫と知恵がいる生活だった。

新型コロナで延期されていた007が公開。やっとスクリーンで見ることができた。ジェームス・ボンドは御存知の通り、イギリスの諜報部員(MI6)である。ストーリーには、英国があふれていて、この映画の影響で、シャンパンはボランジェ(※2)、カクテルはマティニー(※3)とバーでオーダーしてしまう。007シリーズでは度々、ディフェンダー(※4)が登場してくる。このディフェンダー、英国デザインのロングライフで頑丈な車が、ついに新型が発売された。(映画でも登場)久しぶりに触発され、このNEWディフェンダーを見に、ディーラーに行き行って驚いた。今の車選びは、基本車両に多くのオプションをつけて、はい、幾ら。1000万! 昨今の外車は1000万からだ(※5)。

日経の記事を思い出した。iPhone13Proは日本では平均給与の10.2日分、米国は5.9日。さらに、海外では年々指数の値は低くなるのに、日本は上がっている。これは、海外の人は、iPhoneが年々値ごろになったと感じ、日本人は高嶺の花になっている。物価が上がるのに賃金は上がっていない証拠である。しかし、街を見てみると、高価な車が沢山走っているし、建売住宅にレンジローバースポーツ(※6)が

とまっていたりする。

人手不足とモノ不足は深刻で、それを理由に工事見積など断られる。今や、待つことはあたりまえ。お金を持っていても手に入らないのが現実となる。想像以上に日本の二極化は進んでいるのではないだろうか。

JIAの変化はどうか?会員減少と人手不足

社会構造上人が減るのは当然だが、なぜ、若手建築家が去っていくのか。

それは価値の乖離にあると思う。建築家資格制度は、建築家本来の価値を見える化する一つ的手段だと思う、手続の複雑さや厳格化などわかりにくいことは否めない。そのような倫理的な力で会を運営していると、本来の価値は見えなくなり、活動が仕事化しさらには奴隷のように感じてくる。それを拭い取るのは、活動において、労働感よりワクワクが勝らないと。多様な使命感と活動の先の喜びを伝えないと、魅力は半減どころか、さらに離反する。これは人口減とは別次元の問題。

二極化の向こうにデフレの思考とすでにあるインフレ

住宅等連絡会議などで告示98号の見直しに関して小規模建築などの作業時間の集計など積極的に働きかけている。

建築コストの上昇やモノの値上がりのなか、施主に理解される設計費の提示の仕方が重要になってくる。長いデフレを経験してきた日本では、多くの施主がデフレから抜けていない。私達の作業量を提示し、何より設計者の賃金に直結することで施主に理解を求めやすい。時間を記録しよう。

今年インフレを意識する構造的変化の年になるように思う。

設計費の提示の改革の時。建築家の価値と連動するコスト意識を市民にも理解いただける活動が重要となる。

働き方の変化は、多くの見直しの機会を与えてくれる。また、働きの変化は暮らし方の変化に直結して、日々自宅で食事や健康を考え、(ちっとも痩せないが)登山なんかを始めようとしている。人生初のオフロード車に乗って山に行こうと思う。

注釈

(※1) 正式名「CAR GRAPHIC」株式会社カーグラフィックが発行する自動車雑誌。創刊は1962年。独自のテストなどを掲載するなど自動車評論のあり方を変えた雑誌。創刊時の出版は小林彰太郎等による二支社であった。

(※2) ボランジェ BOLLINGER フランスのシャンパン。1884年に英国王室御用達。映画「007」に度々登場する。

(※3) ジェームス・ボンドのオーダーするマティニーは「ウオッカ・マティニー」ステアではなく、シェイクスタルとレモンピールを強めることが特徴。

(※4) ランドローバー・ディフェンダー Land Rover Defender イギリスランドローバー社が製造するクロスカントリー(4輪駆動)車。強靱な構造をもった車両のため、各国の軍用や警察車両に採用されている。道具としての車両である。現在ランドローバー社はインドのタタ・モーターズが取得している。

(※5) 調べた外車 ボルシェ911Carrera 14,290,000円から LAND ROVER DEFENDER ベース7,780,000円からこれにオプションが必要。車両は浅井の選択による。

(※6) RANGE ROVER SPORT 9,360,000円から

JIA本部理事
浅井 裕雄



JIA 2022 新年あいさつ

JIA東海支部の皆さま、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。早いもので私の残りの任期も4か月ほどになりました。最後までしっかりと勤め上げ、後任に引き継いで参りたいと思います。

また来期は、東海支部の支部長を静岡地域会から輩出させていただくことになりました。皆様におかれましては、支部長候補者の大瀧正也氏に対する温かいご支援、ご協力の程よろしくお願ひいたします。静岡地域会もしっかりとサポートさせていただきます。

JIA静岡地域会長としての3年間を振り返ってみると、全てが自分自身の成長に結びつく得難い経験をさせていただきました。改めてご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(事業活動について)

就任一年目は、地域の法人企業様のアイデアやご協力をいただき、会の枠にとらわれず動き出していける手ごたえを感じましたが、さあこれから二年目という矢先にコロナ禍が始

まり、苦しい船出となりました。一方で、手探りで始めたオンラインの活用も次第に日常になった頃、リモートによるJIA塾で一般建築関係者の新規参加が逆に見受けられ、会場に行くほどではないけれどJIAの活動には興味を抱かれていることを確認しました。

三年目の今年はオリンピックイヤーと重なり、自転車競技が行われる静岡県東部地域を中心に感染が広まってしまいましたが、年末には静岡県建築文化研究会にて、内藤廣先生のオンライン講演会を企画から二年越しで開催させていただきました。全国から多くの参加があり、オンラインが世界を広げてくれたことを実感しました。担当者の粘り強い取り組みと、建築家の対応力と実行力が発揮されました。

(公益性について)

令和三年の熱海の土石流など、静岡では台風による災害で多くの方が被害に会いました。JIA静岡も静岡県災害対策士業連絡会の一員として現地相談会に参加させていた

だきましたが、被害と避難と支援の複雑な関係や、法律の隙間で苦労される方々に直面し、建物に対する支援と共に、復旧の制度上の仕組みや知識を習得することで現実的な公益を担えるのだと感じました。

(会の財政について)

良質な活動は、健全な財政基盤の上で成り立つ。建築には継続性という責任があり、時代に合った会運営にすべきであると考え、JIA静岡の財政改革を行ってきました。おかげさまで一区切りつくことができ、活動基盤の再構築ができました。改めてこれまで水面下で応援して下さい、示唆を与えて下さった諸先輩方に心から感謝申し上げます。



JIA静岡地域会長
八木 紀彰



あけましておめでとうございます。日頃よりJIAの活動にご参加、ご協力いただき、ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、通常総会は前年に続き議案を書面表決とし、オンライン方式で開催しました。そして例年取り組んでいる講演会・見学会・懇親会なども対面形式での開催を中止、または延期せざるを得ない状況となりました。

このような中、会員向けにWebを用いた連続セミナーや研修会などを開催し、CPD(継続職能研修)単位取得の機会を提供しました。昨年度から始めた「電腦設計論壇」は10回を重ね、多方面からの参加がありシリーズとして定着しています。学生に向けた活動として数年前から続く「JIA大学授業-建築家の仕事」は今回も同じくオンライン方式により始まりましたが、その後第4講座からは対面での授業となり、学生の反応を感じながら講義を

行っています。1月最後の講義(第15講座)では学生とのディスカッションを楽しみにしています。今年度新たな取り組みは市民向けの活動として、愛知県図書館と共催で小学生を対象とした建築ワークショップを行いました。一寸格子(一寸角の棒材)を使って立体空間をつくり、児童とその保護者の方との交流を通してJIAの活動を知っていただく良い機会となりました。

また新しい取り組みとして、オンライン会議を活用し、役員会に会員のオブザーバー参加を可能とし、昨秋から皆さまに参加の呼びかけをさせていただいております。コロナ禍において会員同士の交流ができない中、地域会役員会の透明性と情報共有の機会にしたいと考えていますので、ぜひのぞいてみてください。また、法人協力会員(JIA・愛知賛助会)との接点が少なくなっていることから、オンライン方式による企業PR会を設け、安全安心・環境配慮・防災・SDGsなどに関連した商材を紹介

していただいております。

今後の事業として、コロナ感染症拡大の様子を見ながら対面で小学校建築教室、建築家資格制度について会員討論会を行う予定です。地域会長として私の任期も残すところ4か月ほどとなりました。引き続き地域に密着した委員会活動を中心に、公益性、公共性をもって活動を進めてまいりたいと考えています。今年も会員の皆さまのご理解とご協力、そして積極的な参加をよろしくお願いいたします。



JIA愛知地域会長
澤村 喜久夫

新年明けましておめでとうございます！
岐阜地域会では昨年11月に、JIAの窓を行い、新たな企画として、「ぺちゃくちゃナイト」を開催いたしました。岐阜地域会の協力会員の皆様、愛知地域会の方々のご協力のお陰様で大変盛り上がったイベントとなり、心から感謝申し上げます！このJIAの窓の趣旨としては、発表者の人となりを知る事です。それぞれの建築家が何を考えて日々を過ごしているのか？また、レアな趣味の持ち主だとか、仕事の裏側でどんな顔しているのか？等々がわかる内容になったと思います。

今後この企画を更に広げていくと、建築家同士の個性に気づき、自己を高め合い、様々な分野でそれを活かしていく事ができ、建築業界を変えることが出来るアイデアが湧き、JIA自体が活性化していくと思います。

この先、JIAが出来る事は、建築家の価値だけを問うのではなく、建築業界全体を盛り上げる事にあると考えます。その上で施工会

社、専門業者の中間役として建築業界全体のコーディネーターが出来る第一の団体としてJIAの岐阜地域会が存在することを積極的にアピールする体制を整えたいと考えています。JIAの活性化を考えた場合、個性の出し合いだけではなく、具体的には建築業界全体の個性の出し合いを考えることが大切です。

コロナ禍で、団体で協議する機会が激減しました。しかしながら、これからの建築業界全体が元気を出すことやお客様へのサービスを考える事等々、建築の技術だけではなく、もっともっと協議すればさらに良くなるのが山ほどあると思います。

施工関係者の職人さんも含めた方々と繋がりを持つ機会を多くし、設計業+aの業務をJIAが担い世間に重要な役割を果たすことを周知出来る事がこれから大切になってくると考えます。

岐阜地域会としては、東海支部を盛り上げるために、先ず岐阜地域の職人さんたちと会

話し、ぺちゃくちゃナイトを駆使して建築業界の方々と個性の関わりを大切に基盤づくりを行って参りたいと考える次第です。

JIA東海支部の益々の発展を祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます！



JIA岐阜地域会長
長尾 英樹

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

地域会長として2回目の正月を迎えましたが、未だ「新型コロナ」は終息していません。ただ、昨年度は事業のほとんどを中止せざるを得ませんでした。今年度は規模・対象・移動に制限を設けながらも事業が行えており、これはひとえに支部や地域会の皆様の努力と工夫のおかげと大変感謝しております。

さて、前段で「規模」「対象」「移動」というキーワードが出ましたが、新型コロナ禍における「規模」は人数を、「対象」は所属を、「移動」は地域を、それぞれ現していると思います。この「人数」、「所属」、「地域」の制限をどんどん無くしていくとどうなるか。それって「グローバル化」になるのではないのでしょうか。今回の新型コロナウイルスによるパンデミックはまさに、グローバル化に伴う人流・物流によりもたらされたと言われてます。過去のパンデミックも振り返ってみましょう。14世紀の「黒死病」はモンゴル帝国のユーラシアグローバ

リズムの下で、商人達がユーラシア大陸を歩き交ったことから、ヨーロッパ・北アフリカに掛けて瞬く間に拡散したとの見方があります。また20世紀初頭の「スペイン風邪」は、人類初の戦争のグローバル化と云われる第1次世界大戦におけるアメリカ駐屯地で最初の感染が確認され、そこから拡散が始まったと考えられています。果たして「グローバル化」は正しいのでしょうか。社会的・経済的・文化的に国や地域を超えてその結びつきが深まり一体化することで、様々なメリットを享受することができる。がその反面デメリットも多く、産業の空洞化・雇用の損失・文化の衝突が代表的なものとして挙げられます。国や地域の所謂「らしさ」が損なわれることもデメリットの一つでしょう。ここに「パンデミックの発生」を加えらると、正しいとは言い難くなってきます。「グローバル化」と一見似た言葉で「国際化」があります。ちょっと使い古された感のある言葉ではありますが、むしろ目指すべきは「国際化」ではないかと考えます。こちらは一体化しません。それぞれの

社会・経済・文化の違いを理解・尊重しながら、交流は活発化しますが、あくまでも「際」があり、それぞれが別の物として存在することになります。よって「人数」「所属」「地域」は制限したままでも、交流することが可能になり、時勢や状況に応じて、交流具合を調整することもできます。とても優れた概念なのに、何故か「グローバル化」に置き換わってしまいました。それぞれの国や地域の「らしさ」を損なわぬためにも、今一度「国際化」に戻すべきだと思います。これはJIAの在り方にもあてはまることではないでしょうか。我が地域会の運営においても「グローバル化」ではなく「国際化」を意識して、新年の活動をスタートしたいと思います。皆さま、どうぞよろしくお願い致します。



JIA三重地域会長
出口 基樹

マクロとミクロの視点から組み立てた 景観計画群のマネージメントの実践

— 日本建築学会賞受賞業績記 第5回 —



1.はじめに

本稿では、第3回と第4回で紹介した「歴史街道文化圏域」と「伊勢志摩国立公園圏域」における景観まちづくりプロジェクトに続いて、「世界遺産圏域」における歴史的景観と自然景観を対象にしたプロジェクトについて述べてみたい。

2.世界遺産圏域における 景観まちづくりプロジェクト

三重県には、世界遺産に登録されている熊野古道が存在している。世界遺産の正式名称は「紀伊山地の霊場と参詣道」であるが、一般的に熊野古道として親しまれている。世界遺産としての特徴は、紀伊半島(三重県・奈良県・和歌山県)において広範囲に展開し、霊場群(熊野三山、吉野・大峰、高野山)と参詣道群(熊野参詣道(熊野古道)・大峰奥駈道・高野山町石道)から構成されていることである。

熊野古道は、熊野三山(熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社)への参詣道の総称であり、代表的なものは「紀伊路」(紀伊半島を西回りして大阪と田辺を結ぶ)と「伊勢路」(紀伊半島を東回りして伊勢と熊野三山を結ぶ)である。三重県にある伊勢路は、江戸時代以降、お伊勢参りを終えた旅人が熊野詣や西国三十三ヶ所観音霊場巡りへと巡礼するために盛んに使われることとなった庶民の道であり、多くの峠を超えるのが特徴である。

JIAの会員の皆様は、熊野古道を歩いたことはないが霊場には行ったことがあるという方が多いのではないだろうか。吉野や高野山は観光地として有名であり、近鉄や南海が通っているので行きやすい地域である。一方、熊野三山は紀伊半島の先端近くにあり、JR特急の本数は限定されており霊場群の中では一番行きにくい場所と思われる。

熊野古道の景観まちづくりプロジェクトは、県からの依頼を受けて2011~2013年度にかけて実施したものである。熊野古道がある

東紀州地域は小規模な市町であり自力で景観行政団体になることが難しいことから、この地域の唯一の景観行政団体である三重県が景観調査を行い、世界遺産周辺の景観保全のための景観計画の検討を目的に取り組むこととなった。この取り組みは、①熊野古道の峠道等における眺望景観の調査、②熊野川流域の集落景観の調査、の2つから構成されていた。

3.熊野古道の眺望景観プロジェクトの 実施状況

熊野古道の眺望景観プロジェクトの対象地域をまとめると図1に示す通りである。合計36地区を対象にして主に夏の間調査を行い、伊勢路を代表する数多くの峠越えを経験することになった。峠道は標高差が大きいと峠に辿り着くのが大変で、ひたすら森の中を黙々と歩き続けることになり、参加した浅野研究室メンバーの体力と精神力が鍛えられることになった。また峠に近づくと本道から枝道に分かれて

調査場所に向かうことが多く、枝道は人通りが殆どないことから夏は昆虫王国となっていたのに驚かされた。数メートルごとに大きなクモが立派な巣をはっており(この地域のクモの縄張りは数メートルの間隔であることを実感)、それを壊さないように注意してかがんで通れる程度に棒をつついて穴をあけて前を進むことになり、調査メンバーからは一生分のクモを見た!という笑い話が出たほどであった。また紀北町の大敷魚見小屋(山上から湾内に入る魚群を見張っていた小屋)の調査時は、廃墟となり背丈ほどの草に覆われた小屋の周辺からスズメバチ軍団が登場し、これまたミッションを遂行して調査するのが大変だったことも懐かしい思い出である。事前に観光関係者に魚見小屋の行き方を確認しているが、(おそらく担当者も夏に歩いたことがなく)誰も昆虫王国であることを教えてくれなかったのである。一連の景観プロジェクトの中で最も体力的にツライ調査であったが、峠から見える熊野灘

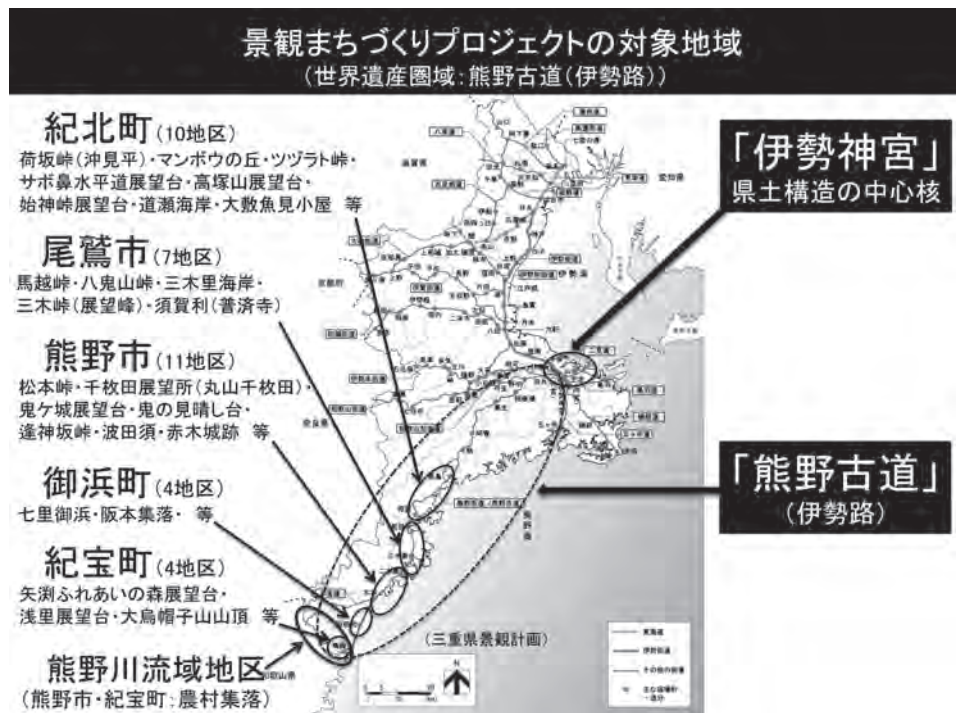


図1 景観まちづくりプロジェクトの対象地域(世界遺産圏域:熊野古道(伊勢路))

への眺望景観は雄大で美しく、かつての巡礼者もこの景観に感動していたことに大いに納得出来た経験であった。

4.熊野川流域の集落景観プロジェクトの実施状況

熊野川は、かつて「川の参詣道」と呼ばれて巡礼者に利用され、また木材の輸送路としての役割も担ってきた川であり、和歌山県と三重県の県境を流れているのが特徴である。世界遺産登録後は川舟下りが復活する等、観光客の目にとまる機会が増えたことから、熊野川沿いの全集落の景観調査を行い、世界遺産周辺の景観保全のための景観計画を提案することになった。

熊野川流域には7集落が存在しており、建築物や工作物等に対する悉皆調査を行った結果、概ね素朴で良好な集落景観が継承されていたが、一部地域における道路付属物(ガードレール等)、高圧送電鉄塔や携帯電話基地局、民家の屋根や外壁、屋外広告物、土砂採取跡地等が景観阻害要素となっていることが確認された。また世界遺産の周辺環境を保護するために設定されている緩衝地帯が沿岸と森林(吉野熊野国立公園の特別地域)を中心にした限定的な範囲であり、7集落は全て範囲外という課題を抱えていた。以上の課題を踏まえて、緩衝地帯と7集落の両者を包含しながらより広範囲に渡って景観保全を担保する



写真 浅里地区の被害状況(紀伊半島大水害:2011年)

仕組みとして、図2に示すように熊野川流域景観計画区域を提案することになった。

熊野川流域の景観調査で忘れることが出来ないのは、調査終了後に紀伊半島大水害が発生し、水害や土砂災害により景観が変わってしまったため、被害状況を確認するために最初から全ての調査をやり直したことである。災害復興を念頭にいた景観計画について考える貴重な機会となった。また地元関係者との説明会では、膝をつきあわせながら過疎化が進むこの地域の将来像を何度も議論したことも大変に勉強になった。

5.熊野川流域景観計画の策定

以上の調査を踏まえて、最終的に三重県によって「熊野川流域景観計画」が策定され、おかげさまで私たちの提案が反映されることになった。三重県はすでに「三重県景観計画」を持っており、都道府県としては異例の2つ目の景観計画となったが、これは世界遺産の存在のおかげである。また、紀伊半島大水害を踏まえて、熊野川流域景観計画の中に「災害に対

する復旧・復興への備え」という項目も入れることになったが、景観計画の中に防災・復興について言及するのは滅多にないことである。

なお、昆虫王国に足を踏み入れて実施した眺望景観の方は、将来的に市町が景観行政団体になった時に実現することが望ましいことになり、残念ながら幻に終わってしまった。

6.おわりに

本稿では、世界遺産圏域である熊野古道を対象にした景観まちづくりプロジェクトについて説明させて頂いた。

JIAの会員の皆様で熊野古道に行ったことがない方は、ぜひ現地を訪れてウォーキングをして頂くとともに三重県立熊野古道センターを見学して頂ければ幸いである。天気がよければ森の中のウォーキングは、心身ともにリフレッシュになる。ただし伊勢路には数多くの峠道があり、峠によっては標高差が大きく(運動不足の方には)体力的にキツイために、事前に三重県立熊野古道センターのHP等をチェックして難易度を確認しておくことがベターである。私見であるが、体力に自信のない方でも峠道を満喫できるのは「松本峠」である。これぞ伊勢路という美しい石畳が残っており、近くに世界遺産の鬼ヶ城と鬼ヶ城センターもあるのでオススメである。私も以前、当時小学生の子どもを連れていったが家族全員に好評だった。

次号では、本特集のまとめとして全体を振り返って景観まちづくりについて述べてみたい。

参考文献

- ・三重県立熊野古道センター・ホームページ
- 熊野古道伊勢路とは
- ・和歌山県世界遺産センター・ホームページ
- 世界遺産を知る



図2 熊野川流域景観計画区域(提案)

浅野 聡

三重大学教授



JIA TOKAI ARCHITECTURAL PRIZE FOR HOUSING PROJECTS 2021

2021東海住宅建築賞 2次審査

10月23、24日の両日、2021年度の東海住宅建築賞の現地審査が行われました。コロナ禍により昨年は住宅建築賞の選考ができなかった為2年ぶりの現地審査となりました。今年も緊急事態宣言が発令されたため現地審査ができるかが危ぶまれましたが、無事に行うことができました。現地審査の対象となった6作品のクライアントには深く感謝します。

最終審査会は、審査員と事務局メンバーがJIA東海支部に集まり、応募者と参加者はオンラインにて行いました。最終選考に残った応募者にも発言の機会があり、充実した審査会になりました。個々の作品について審査員3名から丁寧な講評があり、応募者とも活発なやりとりが交わされました。オンラインであったことがむしろ審査員と応募者との距離を縮めたように思います。対面での審査とは違った不思議なライブ感があり、とても刺激的な場となりました。コロナ禍の中、多くの方がオンラインでのやり取りに慣れてきたため、大きなストレスもなくこのような会が成立するようになったのだと感じました。東海住宅建築賞だけではなく、多くの催しがオ

ンラインとリアルが共存する形になって行く姿が見えてきたようで、その意味でも面白い審査会となりました。リアルな会場に比べて盛り上がりには欠けるのではないかと心配しましたが、全くの杞憂でした。

審査に同行して、建築は設計者だけではなくクライアントの力によって成立するものだと深く感じました。今回拝見した6軒の住宅では、6軒とも全てクライアントのライフスタイルがはっきりしていて、それを空間に置き換える建築家の努力と見事にシンクロしていたように思います。

その中で、私自身が建築を設計する前提や基本条件だと思い込んでいたものが実はそうではないのだと気づかされました。特に「溶ける建築」のクライアントの発言には本当に驚かされました。私たち設計者は、断熱に関わるサッシやガラスの性能は高ければ高いほど良いと信じ込んでいるように思います。少なくとも私自身はそうでしたし、今でも基本的にはそれが正しいと考えています。しかし、このクライアントはペアガラスの断熱サッシで密閉された空間には生理的に我慢ができないと言うのです。寒い冬の朝など、室内が

そこそこ冷えた状態の中で冬の寒さを感じながら目を覚ますのが自然で良いのだと。このクライアントは御自身が元々建築設計者であった方なので、建築の断熱性能に関する知識や実感などをお持ちだった方です。そのような点では特殊な事例ではありますが、建築家の方もクレームを言われたいという安心感があって思い切った提案ができたのではないかと推察しますが、生理的、身体的快適性については一律に性能だけで判断してはいけないのだと深く考えさせられました。他の5軒のクライアントの方々も個性的で、3名の審査員もクライアントのお話に聞き入る場面が多く見られたのが印象的でした。

審査の詳細や各審査員の見解については、例年のように冊子としてまとめられるので楽しみにお待ちください。

伊藤 恭行 (JIA愛知)

JIA東海住宅建築賞
特別委員会委員長





◎大賞:彦坂昌宏「多米の家」



◎ 優秀賞:河合啓吾「SLBH6」



◎ 優秀賞:浅井裕雄「溶ける建築」



◎ JIA東海住宅建築賞:
澤秀俊「飛騨古川雪またじの屋根」

◎ JIA東海住宅建築賞:榮家志保「秋本邸」



◎ JIA東海住宅建築賞:
吉田夏雄「肥田の家」

『ARCHITECT』400号記念

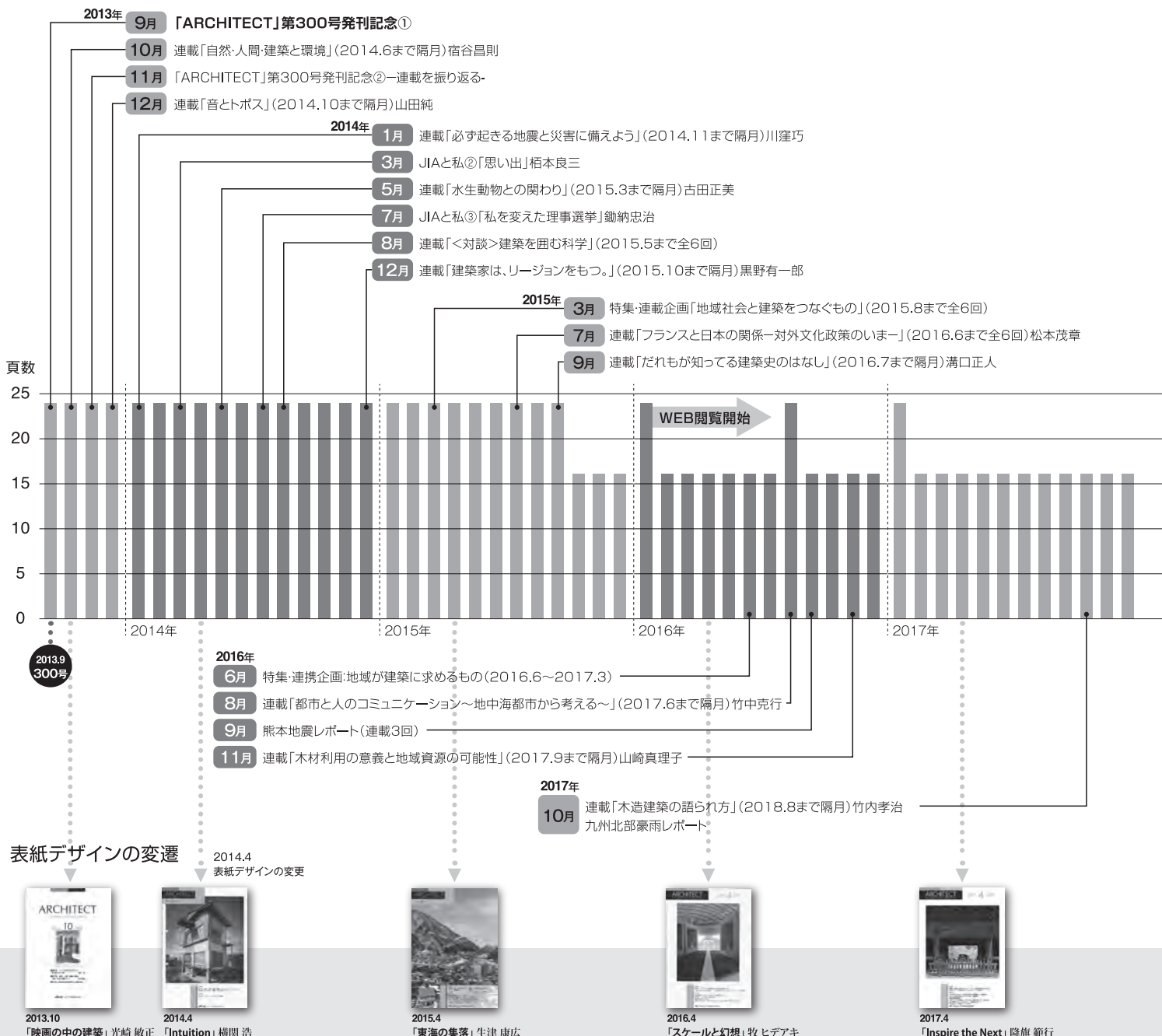
300号から400号までの主な変遷 頁数の推移とともに振り返る

JIA 東海支部会報委員会 前委員長 中澤賢一
委員長 川本直義

機関誌『ARCHITECT』は1988年10月に創刊してから毎月継続して発行してきました。20世紀から21世紀に変わり、昭和から平成、令和と時代が変わってきましたが、400号まで毎月変わらず会員の皆さまにお届けできたことは、編集委員会一同大変うれしく思っています。しかし、300号から400号発行までの間に、『ARCHITECT』発行に対しての様々な風が吹き、発行の危機もあり、様々な変更対応を迫られました。その時の支部長、会報委員長を中心にして、編集会議でも議論して何とか継続する道を探ってきた結果、ここに400号を発行することができました。

発行に対する大きな影響は、支部財政上の問題からの見直し問題でした。『ARCHITECT』発行経費をいかに削減するかが課題となったことです。さらに、創刊以来編集を委託してきた建築ジャーナルが編集費の値上げを切り出したことにより、支部会員全体を巻き込んで『ARCHITECT』が必要かどうかの議論までしました。最近はややよく落ち着きましたが、以前の機関誌とはだいぶ様変わりしたとを感じる方も多いと思います。

そこで、400号発行を機に、300号から400号までの変化について振り返ってみたいと思います。



■表紙のデザイン変更

創刊時から長年親しまれてきた表紙デザインを変えようという動きが起こりました。若手会員を増やすためにも、新鮮なイメージが必要だという主張、若手会員の活躍を促すことも必要ということで、2014年4月から変わりました。それまで、中央の小さな四角の中に写真や絵を入れていたデザインを、表紙全体を使って写真を掲載するようになりました。毎回デザインの調整が発生するため、編集の手間がかかるという結果になりましたが、表紙デザインの可能性を広げました。

2019年6月の編集者変更に伴い、再度表紙デザインを検討し、やや従来のデザインに戻りました。ただし、フルカラー印刷となり、カラー写真が使えるようになりました。

■ページ数の減少

長らく24頁での機関誌として定着していましたが、支部の経費削減のため、ページ数を減らすか隔月発行にするか選択してほしいと迫られました。毎月発行を選択し、2015年10月からページ数を16頁にしました。そのため、外部の専門家に執筆を依頼していた連載の数を減らしたり、事業報告を短くしてもらったり工夫しました。

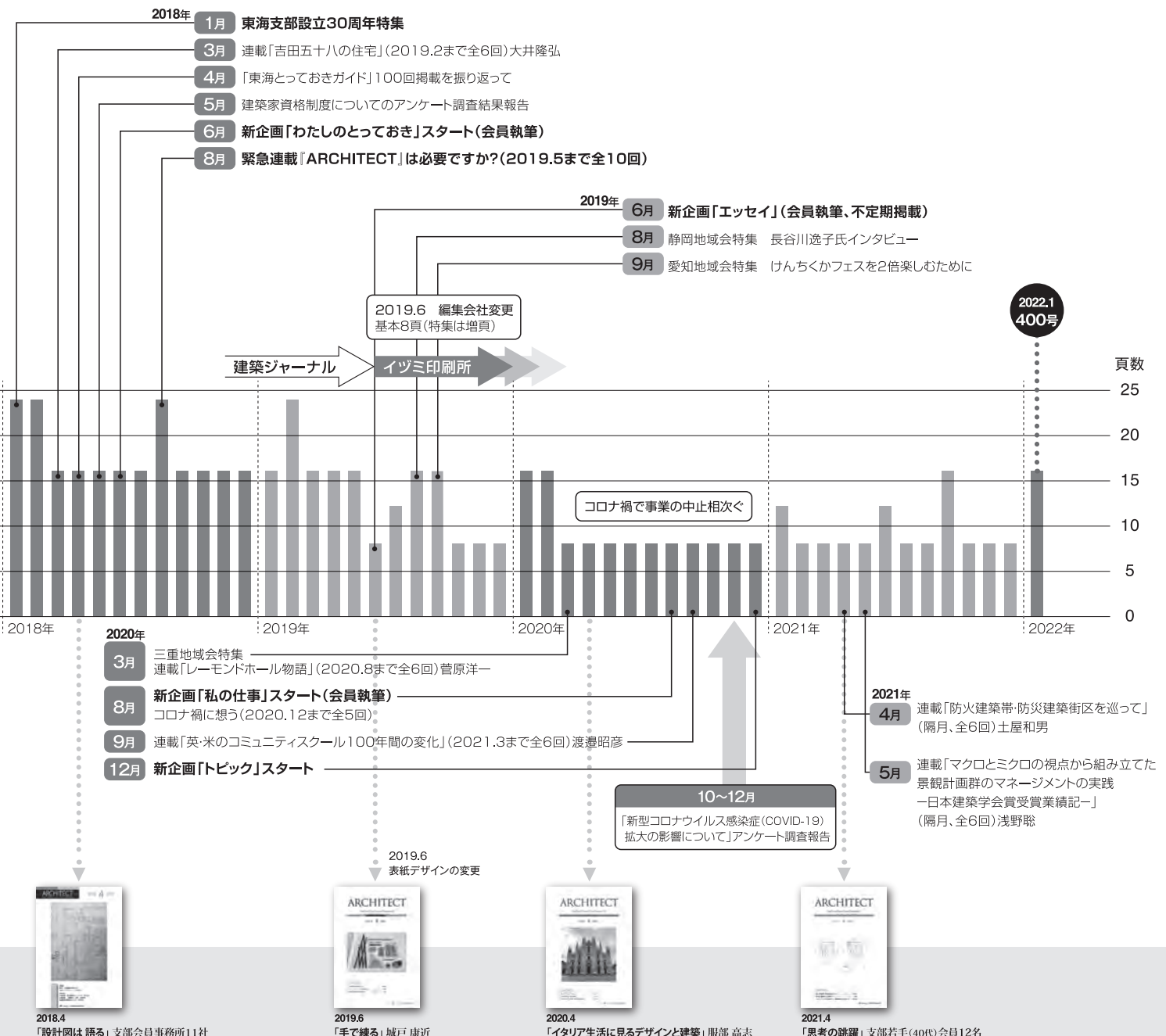
2019年6月からは、8ページを基本とし特集号でページを増やすという方針に切り替えました。裏表紙に賛助会員企業の広告を掲載し、裏表紙裏も記事掲載に使うなど全ての紙面を有効に使うようになりました。

2000年春からのコロナ禍により、JIA事業の中止が相次ぎ活動が停滞したことから、報告記事も減り8ページのままが続きましたが、2021年になりオンラインでの事業実施も多くなり、事業が復活してきましたので、特集号も今後増えていくと思われます。

■災害に関する記事が多数

300号から400号までの期間は、災害に関する記事の多い期間でもありました。2011年3月の東日本大震災に関する記事として、「東北からのメッセージ」を2018年3月号まで不定期で掲載しました。それに加え、「東海の減災を考える」と題して名古屋大学減災連携研究センターの提言も掲載しました。

2016年4月に発生した熊本地震についても、「熊本地震JIA会員からのレポート」を3回掲載しました。2017年7月の九州北部豪雨についても、九州支部からのレポートを掲載しました。そして、2020年からのコロナ禍では、東海支部会員にも大きな影響がありました。



■発刊の危機を越えて

2013年300号の時点では毎月24頁の発行でしたが、2015年10月には毎月16頁、そして2019年6月には毎月8頁の発行と、この100号の間に2度の頁縮小が実施されました。結果だけ見れば、支部財政悪化の影響を受け、単純に規模を縮小したように見えますが、現在の発行形態に行き着くまでに様々な検討が行われました。

まず、新たな編集社の検討やさまざまな発行形

態での試算を行うとともに「ARCHITECT」誌上で、創刊の経緯や意義、現況から見直しに関する検討内容を伝える緊急連載を毎月掲載しました[2018.8月号～2019.5月号掲載]。

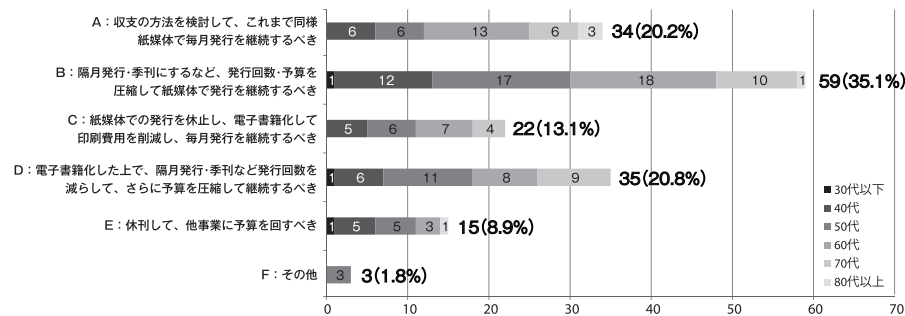
その内容をふまえて11月に支部全会員(準会員・法人協力会員含む)と寄贈送付先(130カ所)を対象に「ARCHITECT」継続・休刊に関する会員アンケートを実施。その結果[2019.1月号掲

載]をもとに全会員を対象とする会員集会を2月に開催[2019.4月号掲載]しました。

会報誌の行く末について、全会員で議論検討する機会が設けられたことは大変大きな出来事だったと思います。

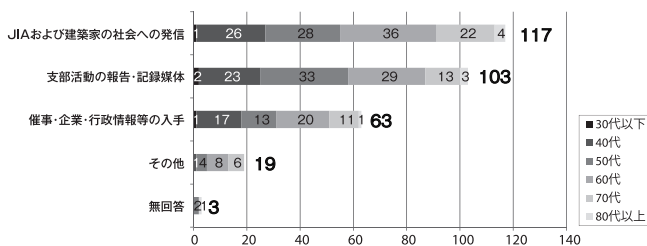
特にアンケートの中で発行形態に対する設問を用意しましたが、その回答は以下のとおりでした。

Q7 会報誌「ARCHITECT」の継続について、どうすべきだと思いますか。その理由も教えてください。※2019.1月号掲載



検討段階では紙媒体での配布を廃止し、記事をWEB化するという方法も若手を中心に支持されていました。また、経費を削減しつつ、執筆者の負担を減らす意図で隔月発行とする方針が優勢で会員集会が開催されましたが、最終的には、会報誌が全会員に平等に届くJIAとのつながり、会の所属を認識できる唯一の会員サービスであること、寄贈先を皮切りに外部へ活動を周知発信できる媒体であることから、紙媒体での毎月発行を続けることになりました。これは振り返ってみると、先に行ったアンケートにも見られた結果でした。

Q4 あなたが会報誌「ARCHITECT」に求めるものは何ですか。(複数回答可) ※2019.1月号掲載



■その他の意見

- ・会員相互の情報交換・交流
- ・執筆訓練、会の議論の場
- ・組織力強化、会員増強
- ・すべてのアーカイブ
- ・お手軽な、気楽な読み物
- ・会員の近況、地域会の情報
- ・会と会員の直接的なつながりのシンボル
- ・会員同士の紙面を通じた交流

以上のような検討の経緯により、当時の矢田支部長が以下のように方針を示し現在に至っています。

1. 発行形態について

- ・紙媒体を維持、毎月発行を継続。
- ・毎月の基本頁数は8頁となるが、特集企画を年数回組む。(特集企画頁数増)

2. 広告・協賛金について

- ・現状の大口広告は維持した上で、各地域会に応分負担。
- ・法人協力会の広告、名刺広告の徴収方法は各地域会に一任し、誌面には従来通り広告枠を残す。
- ・「ゼネコン広告」を解禁。

3. 編集社・印刷会社について

- ・「編集社」「印刷会社」は「建築ジャーナル」から「イツミ印刷所」に交代。

4. 誌面について

- ・毎月の基本頁数は8頁。
- ・特集企画を年数回組む。当面、特集企画を検討する企画会議には、各地域会長、支部及び各地域会委員会の委員長、有志の皆さまにお集まりいただき検討。

今後、移り行く情勢に合わせ、また会報誌の発行形態は変わっていくかもしれません。しかし、会報誌が会員自身で企画・執筆し、会員の顔が見える手作りの媒体であり、かつ内外へ発信できる媒体であるという本質は変わらないはず。

今後も引き続き、会員皆様のご協力をお願いいたします。

森羅万象匠塾開催

ものづくりに係るヒト・モノ・コト・ココロを講師に語っていただくJIA三重の伝統企画である「森羅万象匠塾」が、10月22日に津市・三重県総合文化センター特別会議室で13名、ZOOMで11名の出席で開催された。講師には松阪市と多気郡を中心とする“三重県・中南海勢30万人の郷土紙”夕刊三重新聞社の報道部記者・長嶋千聡氏をお招きして行われた。演題は「地域紙の記者がみた『建築家+社会』の関係」。氏は1999年に中部大学建築学科に入学し同時期に吉本興業名古屋支社NSC(養成所)にも入校した変わり種。

「ダンボールハウス」を卒論に

講演内容は、自身で出会ったホームレスの住居「ダンボールハウス」というテーマを、大学の五十嵐太郎講師(当時)の指導のもとにまとめた卒業論文「ダンボールハウスのコミュニティについて」にまつわるお話が中心であった。ちなみに当事者たちはダンボールハウスを“コヤ”と呼んでいたという。

卒論の調査のフィールドは、主に名古屋市の久屋大通とその周辺であった。約百人から聞き取りとハウスの調査をしたという。2005年に愛知県で開催された「愛・地球博」に先立つ行政による“まちの浄化作戦”や、その後の“寄生させないまちづくり”で壊滅したダンボールハウスを想えば希少な論文となった。

ダンボールハウスとの出会いは、学生時代に深夜のコンビニでのバイトで弁当など余剰食材を処理するうちに当事者と親しくなって、ダンボールハウスを訪ねた時であった。第一印象は、“意外とちゃんと作っているではない



か”で、住人には建築現場作業経験者が少なからずいることを知る。まさに、建てることと住むことが一致している、セルフビルドであった。

ダンボールハウスの実相

ダンボールハウスの平面モジュールは、床に使われる輸送用パレットの寸法によるところが大きいことが分かった。ハウスの構成材は、ダンボールやブルーシート、枯れ木、パレットなどの廃材、つまり世の中のゴミが主であることが特色である。卒論ではダンボールハウスを幾つかに類型化して「小屋型」や「テント型」、「小屋+テント型」などに分けられたが、他人と関りを持たない人は独特な形式を成すことにも気付かされた。また、古くなった屋根材と床材に新しい建材がどんどんと積層されてしまう繭のようになる傾向や公園の樹木の枯れ枝による“鳥の巣”形の骨組みもみられたという。お話をうかがっていると、外装材であり内装材でもある薄いブルーシートがC.アレグサンダーの提唱する「厚い壁」のごとく、暑ければ住まい手に軽快に破られ加工され「有孔体」となる様に小気味よさを感じさせられた面もある。

なかにはセルフビルドが苦手な方で多少の経済的余裕のある方に向けて「賃貸ハウス」もみられたそうで、路上の陣取り合戦で得た貴重な「場所」を無闇に他人に渡したくない「家主」の心理もあって成立したとみている。

建築設備の面からは、給排水衛生設備は公園の公衆便所に依存していることが多く、電源はガソリンスタンドから廃品バッテリーをもらい受けてその電気の残量を消費することでまかない、ガスボンベをどこからか調達して使っている例もみられた。こうした報告からは関東大震災後の今和次郎の「バラック」を想

起させるが、災害に起因するのとは違い社会との関係性のうえからは似て非なる様相が読み取れる。

調査者としては、吉本NSCで培ったコミュニケーション能力も役立ったのではないかと。氏の瘦身の体形も存外重要ではなかったか。恩師のように豊かな体形であったなら成果も違ったのではないかと、などとも思われた。

記者として

大学卒業後は会社員として勤務した他、東京で“売れないお笑い芸人”なども経験したが、朝日新聞記者から「居場所」に係るダンボールハウスの取材への協力を依頼され、帯同するうちに記者の仕事に興味を持ち現職に至ったという。記者は、上司にせかさされ書く記事の量とスピードでは世の中に評価されにくい。建築を学んだことと共に、ダンボールハウスでの権利として「住む」ことや住むより生きるかどうか、そこで生活し続けること、ハラ決めた人がハウスで身をもって生きる様、生きること・建てること・住まうことが素直に露出した事例と接した体験も活かして、現在は介護施設の連載記事「お部屋拝見」でのしつらえの取材や農機具小屋をテーマにするなど工夫して記者活動をしているという。地域の建築家グループとも交流してイベントに参画したりしているともいう。

池澤 邦仁 (JIA三重)

池澤アソシエイツ



新年あけましておめでとうございます 2022年

(静岡・愛知・岐阜・三重地域会 五十音順)

<p>(株)高橋茂弥建築設計事務所</p>  <p>常務取締役 大橋 康孝</p> <p>〒420-0847 静岡市葵区西千代田町 29-30 TEL: 054-246-2731 FAX: 054-247-0113</p>	<p>企業組合 針谷建築事務所</p>  <p>代表理事 鳥居 久保</p> <p>〒422-8072 静岡市駿河区小黒3-6-9 TEL: 054-281-1155 FAX: 054-282-5502</p>	<p>八木紀彰建築設計事務所</p>  <p>代表 八木 紀彰</p> <p>〒420-0884 静岡市葵区大岩本町1-5-305 TEL: 054-245-0186 FAX: 054-245-0186</p>
<p>(株)石本建築事務所 名古屋オフィス</p> <p>オフィス代表 奥井 康史</p> <p>〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル TEL: 052-263-1821 FAX: 052-264-1990</p>	<p>(株)伊藤建築設計事務所</p> <p>取締役会長 森口 雅文 代表取締役社長 小田 義彦</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-15 桜通ビル TEL: 052-222-8611 FAX: 052-222-1971</p>	<p>(株)岩崎設計事務所</p>  <p>代表取締役社長 岩崎 英一郎</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-14-24 TEL: 052-231-8787 FAX: 052-231-8827</p>
<p>(株)城戸武男建築事務所</p> <p>代表取締役 城戸 康近</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-11-23富士和ビル2F TEL: 052-231-5451 FAX: 052-231-5450</p>	<p>(株)黒川建築事務所</p> <p>代表取締役 黒川 喜洋彦</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-9 スガキコ第2ビル2F TEL: 052-203-0281 FAX: 052-203-1884</p>	<p>(株)三和建築事務所</p> <p>取締役社長 見寺 昭彦</p> <p>〒455-0015 名古屋市中区港4-5-5 TEL: 052-661-2211 FAX: 052-661-2247</p>
<p>一級建築士事務所 デザイン スズキ</p>  <p>鈴木 利明</p> <p>〒440-0012 豊橋市東小鷹野4-4-8 TEL: 0532-61-4245 FAX: 0532-61-4215</p>	<p>(株)中建築設計事務所</p> <p>代表取締役 廣瀬 高保</p> <p>〒460-0007 名古屋市中区新栄1-27-27 TEL: 052-262-4411 FAX: 052-262-4414</p>	<p>(株)ヤスウラ設計</p>  <p>代表取締役 水野 豊秋</p> <p>〒460-0007 名古屋市中区新栄2-35-6 TEL: 052-241-7211 FAX: 052-241-7333</p>
<p>(株)ワークキューブ</p> <p>桑原 雅明 吉元 学 平野 恵津泰</p> <p>〒460-0024 名古屋市中区正木1-13-14 TEL: 052-265-8412 FAX: 052-265-8402</p>	<p>日新設計(株)</p>  <p>代表取締役 出口 基樹</p> <p>〒514-0038 津市西古河町20-18 TEL: 059-227-7421 FAX: 059-225-7854</p>	<p>(有)柏彌紙店</p> <p>代表取締役 尾関 和成</p> <p>〒460-0016 名古屋市中区橋1-4-6 TEL: 052-331-8681 FAX: 052-331-8891</p>
<p>チヨダウーテ(株)</p> <p>代表取締役社長 平田 芳久</p> <p>〒510-8570 三重郡川越町高松928 TEL: 059-363-5555 FAX: 059-363-5553</p>	<p>TOTO(株)</p> <p>上席執行役員 中部支社長 伊藤 竜一</p> <p>〒450-6412 名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビルヂング12F TEL: 052-308-4718 FAX: 052-308-5492</p>	<p>(株)建築資料研究社/日建学院</p> <p>支店長 清水 稔</p> <p>〒510-0885 四日市市日永3-2-30 TEL: 059-349-0005 FAX: 059-349-0006</p>

自作自演

私の仕事

05

万年筆と神守の一里塚

愛知県津島市神守町(カモリチョウ)に「歴史の町津島」に見ふさわしくない建物がある。

僕が40年前に設計した建物で、その昔伊勢に向かう旅人が伊勢参りに行くときに海路では熱田から桑名、陸路では津島を通ったそう。その津島の入り口の一里塚である。津島に入るランドマークにしようと設計した現代建築だ。

当時の中部建築ジャーナルでは「神守の一里塚」という名称でコンセプトを書いた。カーテン屋さんの店舗で今でも隣に小さなお宮さんと一里塚があり、案内の立柱がある。

このクライアントはすでにこの世にいないが僕の建築家としての最初の理解者であった。

同年であったこともあり設計にあたり、遊びながら有名建築を見て回り、代官山のデンマーク大使館(楳文彦)の外壁のサーモンピンクのタイルが気に入り同じタイルを採用した。

また初めての海外旅行でロンドン、パリの格安旅行に行き、ロンドンにあった現代建築の一部デザインも取り入れ、サヴォア邸(コルビジェ)も見学、僕らの原風景のひとつとなったのだろう。

この時、パリで買ったモンブランの万年筆、インク漏れなどで直したものの今も愛用している。

当時、彼とはよくビールを飲みながら遊んでいたのが、彼の寿命を縮めてしまったかも知れないと悔いている。

彼が健在であれば、もっと面白い建築をたくさん造らせてくれたらう。



外山 重利 (JIA愛知)
株式会社ドゥプラン

わたしのとっておき

18

六道の辻

最近、京都への日帰り旅を楽しんでいる。名古屋市西区の円頓寺商店街でロングラン公演をしているナゴヤ座の「SEIMEI(平安陰陽譚)」を観劇したこと

がきっかけで、平安時代の冥界に興味を持ち、京都市東山区の六道の辻へ行った。

六道の辻とは、六道珍皇寺の門前のことというようだ。六道とは、仏教の輪廻思想によるもので、死後に赴く6つの世界、すなわち地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道のことである。平安時代初期に小野篁(おののたかむら)という官僚がいた。篁の孫には小野小町や小野道風がいる。篁は、昼間は宮中、夜は閻魔庁に勤めていたとの伝説があり、六道珍皇寺の庭にある井戸

が、この世とあの世とつながるもので、篁が通うのに使ったとされる。

この寺院の門前は、ちょっとした商店街で、「日本一歴史のある飴家」と貼り紙がされている「みなとや幽霊子育飴本舗」がある。琥珀色の飴で、甘すぎず素朴な味だった。そのすぐ近くには、六波羅蜜寺もあり、宝物館では念仏を唱える口から六体の阿弥陀が現れている空也上人立像や平清盛坐像など多くの重要文化財が安置され、近くから拝観できる。

このように、テーマを決めてプチ京都旅行を楽しむのも面白い。



川本 直義 (JIA愛知)
伊藤建築設計事務所



東の宮

猿投神社東の宮は猿投山(愛知県豊田市と瀬戸市にまたがる標高629mの山)の東峰、標高約600mに位置し、一般には本社である麓の猿投神社(主祭神:大碓命[おおうすのみこと]、創建:不詳[851年以前?])から2時間ほど登山道を登って参拝することができます。

創建は平安時代後期と推定され、足利尊氏寄進の槍と鏡があったと伝えられて

います。また、現存しませんが、その昔は寺院があり、薬師如来が安置されていたそうです。現在は拝殿のみで、その奥に御神体の磐座を見ることができますが、これは猿投山が古くから山嶽信仰・巨石信仰の場として崇められてきたことにもつながります。

毎日の水のお供えは最初の登山者が行うことになっていて、杉の樹林帯を登り続けた先に開けた境内は、登山の休憩場所としても重宝されています。ところで、この猿投山は県市の管理だけでなく、毎日山に入って点検、整備を行う複数のボランティア団体や、地元の猿投中学校の生徒・職員・保護者によっても保全管理されており、安全な登山道や案内図の作成、休憩地点各所のベンチやテーブルなど地元の人々に愛着をもって整備されています。

山頂付近の窪地には子供向けアスレチックも作られ、比較的小児の登山者も多い山にあって、休日には

子供たちの元気な遊び声がこだましています。人が立ち入ることで侵されがちな生態系や植生を守り、育てていくために、行政だけでなくボランティア団体により愛着を持って盛んに管理活動が行われ、登山者がマナーを守って利用されています。この好循環は建築や都市においても、対象を持続的に活用する上で参照され得る事例だと思います。



山頂付近のアスレチック

【概要】

所在地：愛知県豊田市猿投町
建設年：平安時代後期
構造：木造
問合せ先：豊田市役所 商業観光課
電話：0565-34-6642

中澤 賢一 (JIA 愛知)

堀内建築研究所



猿投山 山頂

編集後記

●前回2020年4月号で編集後記を執筆しました。その時にはコロナ禍の影響で東京オリンピックの開催が怪しく

なってきたこと、執筆後実際に皆さんが読むころには終息宣言が出て欲しいという期待を込めた内容でした。あれから22か月。東京オリンピックは無観客とはいえ無事開催され、世界的にも評価は良かったと聞いています。コロナ禍は現在落ち着いているものの、世界中でオミクロン株の感染拡大が始まり、日本もいつ第6波になるか心配な状況です。その反面、自粛の影響からリベンジ消費が始まったという話題、ワクチンだけでなく薬の承認が近いというニュースも出始めましたが、設計業界の実態とかけ離れた話にも聞こえます。コロナ禍の影響で中止もしくは中断した多くのプロジェクトが早く再開し、これらの明るいニュースが

自分事と感じることができる日が早く来ることを願うばかりです。(富田 彰次)

●『ARCHITECT』400号、おめでとうございます。300号から400号への変遷を見ると内容に大きな変化があることが分かります。私が支部長在任時に議論をし、現在の形へと変化を遂げました。議論のポイントは”予算の問題”と”執筆者の偏り”の2点であったと記憶しています。予算面では頁数の削減と編集社の変更を行うことで乗り切ることが出来ましたが、執筆者の偏りについては、今少し長い目で見える必要があるかもしれないと感じています。議論自体は「コロナ禍」以前に行われ、この二年間、支部、地域会ともに満足できる活動が出来なかったことを考えると、『ARCHITECT』の役割は非常に大きかったと思います。機関紙のみが活動を続け、会員のみなさまにメッセージを送り続けることが出来たのではないですか？議論の中では廃刊や隔月発行の話

もありましたが、毎月発行を続けることに意味があると、改めて実感しております。『ARCHITECT』が500号、1,000号と続くことは建築家が実在する証ではないでしょうか。(矢田 義典)

ARCHITECT

第400号

発行日 2022.1.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込)

発行責任者 水野豊秋

編集責任者 川本直義

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
株式会社イツミ内

ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/

「羽島の宝物-旧羽島市庁舎」勉強会

DOCOMOMO Japan主催の勉強会が10月27日、羽島市庁舎に近い竹鼻別院庫裏で行われました。羽島市庁舎は旧庁舎を継続使用しながら、隣接地に新庁舎を建設し11月に移転開庁しています。呉市、枚方市など同じ坂倉準三設計の市庁舎が取り壊されているなか、存続するものと安堵していましたが、確定はしていないようです。

旧庁舎は解体されず新庁舎に機能移転して、「羽島市旧庁舎のあり方検討委員会」で今後について議論が進められています。旧庁舎は、生家が徒歩数分という当に地元出身の坂倉準三が設計し1959年に竣工したDOCOMOMO Japan選定建物です。市民のなかにも身近に慣れ親しんだ建物存続への思いが多いようですが、その将来が心配されるという市民からの声を受けて、これまでの経緯やDOCOMOMO Japanが提出した「羽島市旧市庁舎の活用に向けた検討期間の延長に関する要望書」の内容を確認するとともに、坂倉準三と旧市庁舎について学びながら意見交換する会として開かれたようです。

まず最初にDOCOMOMO Japan鯉坂徹氏が旧庁舎の評価される特徴と坂倉準三のバリ博以来の各地での業績を紹介し、その価値を説明。一般に危惧されている耐震性やコンクリートの持続性についての見解を述べ、近代建築を残し、地元文化の育成や観光資源として活用が十分に役立つことを説明されました。市への要望書では、活用の方針決定については



十分時間をかけて取り組んでほしいという旨を要望したとの報告でした。

次に、近代建築の魅力を知る講演として、愛知県の建築家謡口志保氏が、名古屋市内の坂倉準三設計の中産連ビルを紹介し若い世代の感じる近代建築への愛着をその熱い思いを持って語られました。DOCOMOMO Japan理事 大宮司勝弘氏の岐阜県出身建築家山田守の業績紹介と続き、県内の近代建築を残していく意義を参加者に訴えました。

最後に旧庁舎のあり方検討委員会のメンバーである岐阜工業高等専門学校 清水隆宏准教授による市の委員会のこれまでの経緯が説明されました。平成29年新庁舎建設の協議で旧庁舎の市庁舎として継続使用は行わない、建物の取壊しは行わないということとなりましたが、活用の検討には至らないまま。今年7月の検討会においても活用方針は定まらず、市民からも庁舎への愛着を示すものと将来世代への負担を避けたいとの意見があり、継続が確定しない状況のようです。

会場はお寺の庫裏で畳の広間、60名を越える参加者でした。平日の夜という少し特殊な時間帯での開催で、他の建築保存のイベントは建築の仕事に関わる方や学生さんが多く参加されるのに対して、今回の勉強会は地元の方で年齢層もかなり高めの方が大半でした。この建物に対して永く親しんできた方々がこの先を

切実に心配されている印象で、場所の雰囲気も相まって地元市民の集い感の高いものでした。質問や意見も活発でした。多くの方の関心事は再利用時の耐震性に対するものでしたが、具体的な対策はまだ出ていないようでした。若い参加者からは、SNSで保存を呼びかけるために旧庁舎のチャームポイントを教えてほしいとの質疑。保存活用の活動でいつも説明に苦慮する質問です。建物の魅力は、実際に苦慮してもらって、説明・体験して理解が深まるもの、そういったイベントを行うことが効果的との回答でした。羽島市庁舎は建物周囲の蓮池、スロープなど内外部につながる動きのある要素があり、体験の効果は高いと思います。

魅力ある建物の存在が街の魅力も高めて来訪者の増加につながる事例の説明を受けて、市民からも市庁舎周辺の竹鼻街並みと合わせた観光資源としての可能性を話す場面もありました。

東海地区では、旧上野市庁舎も活用方針が確定せず、空家の状態のままとなっています。近々で再生活用が実施され、全国の範となるように期待しています。

服部 昌也 (JIA三重)

八武組

